

いのちの海と空と大地



原発のない世界を求めて ニュースレター

発行： 日本聖公会「正義と平和委員会」原発問題プロジェクト

ホームページ <https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/>



「核のゴミ」最終処分場選定のプロセスはこれで良いか

「核のゴミ」最終処分場選定の取り組みは、現在、北海道後志管内寿都町と神恵内村、及び佐賀県玄海町の3カ所で進められている。北海道の2カ所は2020年12月に「文献調査」が始められ、4年経過して調査の主体である原子力発電環境整備機構（NUMO）の作業が終了し、報告書が経産省に提出され承認されている。引き続き、住民他に公開され各地で説明会が開かれている。

この報告書は、基本的には次のステップである「概要調査」に進むことにより、更に詳しい情報や詳細な情報が得られ、妥当な判断が可能となるというものである。

「概要調査」に進むには、自治体の長（寿都町長及び神恵内村長）及び、北海道知事の了解が必要である。

一方、「核のゴミ」最終処分場選定に関して、なし崩し的に次のステップに進むことはまずいという意見を持つ住民が増えてきており、報告会への参加者が増加してきている。そして、北海道の鈴木知事は、「核抜き条例」があることから、基本的に反対の立場であると表明するとともに、文献調査報告書への意見書を提出した（4月17日）。鈴木知事は2020年9月以降、経産省に複数回、調査を受け入れる市町村の手上げ方式となっている現在の選定プロセスの見直しを求めた。元々、これは国全体の問題であるが、現行の応募方式では「処分地として最適でない自治体の手を上げる」という課題がある」と指摘している。「国が全国の適地を調査し、候補地を絞り込む」ことを提案している。

玄海町の「文献調査」受諾は2024年6月10日に認可され、NUMOが調査を開始した。同町の脇山町長は、「核のゴミ」最終処分場選定は国全体の課題であり、地方の自治体の責任の中で決定する問題ではないとの考えを持っている一方で、経産省自体も早急にまとめられる見通しは持っていないと思われる。以上の状況の中で、第7次エネルギー基本計画が発表され、原子力の比率は2030年に20%とされている。これを実現するには、停止中の原発の再稼働などが必要である。同時に、使用済核燃料の中間貯蔵施設の追加設置が必要となる。最終処分場選定が進まないの、発電所敷地内に空冷の中間貯蔵所の建設を計画している電力会社もある。

再処理工場の核惨事
すべてのいのちを守るために



上の冊子の入手情報は次
頁末をご覧ください。

原発は「必要悪」か？

(情報は北海道新聞 4 月 25 日より)

2011 年 10 月に「原発推進者の無念」という本が発行された。著者は、北村俊郎さん (80 歳)。日本原子力発電元理事で当時は日本原子力産業協会参事。東京電力福島第 1 原発の南 7 ㌔の富岡町にあった自宅周辺は今も帰還困難区域である。原発事故の翌日に半径 10 ㌔圏内に避難指示が出て、川内村の中学校体育館を経て郡山市の大型複合施設で避難所生活を体験した。現在は富岡町から内陸に約 60 ㌔離れた福島県須賀川市で暮らす。かつて原子力産業界の中枢にいて、原発事故で被災者の立場になった北村さんは原発について、また避難とはどんな体験であったのかなどを話された。(以下発言の抜粋)

- 避難所暮らしで大変だったことは**寒さとトイレ**だった。
- **ガソリンの入手が困難**だった。
- 事故が起きることを前提にした**避難計画はなかった**。
- 泊原発で真冬に事故が起きたら、あのような (福島第 1 のような) 程度では済まない。どうするんですか？
- 原発を動かしてきたことで得したのか損をしたのか、この国は**総決算を**やろうとしない。**福島事故で全部吹っ飛んでしまった**。
- 「目先の利益ばかり考えて、事故が起きればとんでもないことになるという想像力が原子力村には働かない」
- 原発の新增設はやめた方がいい。一方で。電力需給の状況を見れば**今ある電源は使うべきです。慎重に**使って**無事に終わらせるべき**。
- 原発は「必要悪」です。

北村さんは安全神話を説いてきた人です。説明会で重大事故が起こる確率を問われると、「1 万年に 1 回あるか、ないか」と答えていたそうです。事務方とはいえ、どっぷりと安全神話に浸っていた様です。

福島原発の事故を避難生活まで経験しても、原子力ムラの人々は、目先の利益ばかり考えて、真の利益についての想像力が働かないと酷評しつつ、原発を「必要悪」と言う。ここに、「脱原発」や「核のゴミ」の問題に取り組む困難さがある。事故が起これば被曝は避けられない。しかし「原発の近くに住んでいなければなんとかするだろう。」とか、「核のゴミ」の 10 万年先に漏れるかどうかの議論などピンとこない」というように、自分の問題とはならない距離感があるように思われる。巨大地震や原発事故はいつ起こるのか予測できない。原発がある以上、それによる危険がなくなることはない。今生きている我々が次の世代のより良い生活を確保するために何を残して行けるのかという課題である。そして、原発を頼りにせずクリーンエネルギーを基本として、経済を動かしてゆく方法を追求すべきである。一時的には困難があるかもしれない。それは「必要苦」として忍従し、全てのいのちの限りない尊厳を守って行きたいものである。

再処理工場の核惨事 すべての命を守るために

迫りくる南海トラフ、そして千島・日本海溝の巨大地震。その時日本にある東海と六ヶ所村の再処理工場はどうなるのか。大事故となれば、想像を絶する膨大な放射能が日本列島を覆い尽くします。大変強い危機感を持って、最悪の核惨事を防ぐために、私たちプロジェクトチームは全国から集まり、全力を尽くしました。とりわけ編集を担当した者の苦労は筆舌に尽くせません。ぜひ、ご一読の上、広めてくださいませ。そして、制作に要した費用と、今後この冊子を活かした国や各政党・地方行政への働きかけに要する多大な費用の軽減のため、ぜひカンパのご協力を頂きますよう、心からお願いいたします。

連絡先：〒573-0028 大阪府枚方市川原町 1-5 ストップ・ザ・もんじゅ

TEL 072-843-1904 FAX 072-843-6807 メール：stopthemonju@nifty.com 価格：600 円＋税

(払込票の情報が必要な方は連絡先にお問い合わせください。)